

【あいこ】勝ちも負けもない同等な関係を表す言葉。
“あいこ”は、この分かち合いの精神で、障がいのある人
ない人にかかわらずお役に立つ情報を発信していきます。



東日本大震災では、地震発生の翌日から情報を収集、救援のためのネットワークを作り、被災地へ。障がいの個別支援をすると決めて、さまざまなサポートを行った。

災害に備えて。 私たちがやるべきことは？

障がい者支援活動を行う八幡隆司さんインタビュー

阪神・淡路大震災(1995年)、そして東日本大震災(2011年)。私たちの日常はさまざまな災害と隣り合わせです。しかし、災害に備え、準備している人はどれほどいるのでしょうか？あるいは、不測の事態のために用意を整えていても果たして完璧な準備となるのでしょうか？どんなに備えていても、大きな災害に遭った時、人は大きなストレスや不安を感じます。障がい者や高齢者など支援を必要とする要援護者たちなら、なおさらのこと。心身に大きな影響を及ぼすことでしょう。



NPO法人【ゆめ風基金】 八幡隆司 氏

大阪市に本拠を置く特定非営利活動法人ゆめ風基金は、阪神大震災をきっかけに、自然災害の被災障がい者を支援し続けている団体。理事の八幡隆司さんは、東日本大震災で被災された障がい者支援のため、東北に通う生活を続けています。災害時の障がい者支援の現状、また、災害に備え、私たち一人ひとりが知っておくべきこと、地域が行うべきことなどを伺いました。

障がい者への支援状況に 変化はあったのか？

阪神・淡路大震災の時に、多くの障がい者は一般の避難所には行けませんでした。トイレが使えない、バリアフリーになっていない、気持ちが高ぶって大声を出してしまう、など理由はさまざまです。その反省として、福祉避難所があればいいということがずっと提唱されていたのですが、今回は福祉避難所がだいぶ増えて改善されていました。けれど、小学校など一般的な避難所は、東日本大震災でも状況は変わっていませんでした。障がいと一言言っても、一人ひとりで障がいの中身は異なります。健康者からはわかりにくい障がいもあるんですね。一般的な避難所に行った時ですが、受付の人が「ここには障がい者はいません」と話している横で、ダウン症の人が歩いているということも。障がい者や要援護者について、把握していないなと思いました。

東北地方は在宅福祉が少なく、入所型が多いのでヘルパーという制度がありつつも、ほとんどの人がそれを受けていない地域なんです。制度があっても相談したからと言っても、現実に動く部隊が少なく、福祉に関してはかなり遅れを取っていると東日本大震災が起こって、痛感しましたね。

(2面へ続く→)

さらに、東北人気質と思うのですが、「あれをして欲しい」「こんなことで困っている」という声も出にくかったんです。最初のうちは、どういう支援をしたらいかがわからず、支援を届けるのが遅くなってしまいました。そういう意味では障がい者支援が相当遅れたんじゃないかなと思います。

災害がない時も地域ぐるみで福祉のネットワークづくりを

支援活動を通して感じるのは、災害が起こってからこうしたらいい、と動くのは遅いということ。普段からどこでどんな人が生活していて、災害になったらこんな助けが必要になるだろう、と情報を共有するのが大切です。ゆめ風基金では、「普段から地域でのコミュニティを築く」ように言っています。地域の自治会、町内会など今ある団体の仕組みを活かしながら、災害に備えましょう、と。災害時に限った仕組みや団体を作って、「備えましょう」よりも、日常的に顔と顔が見える関係を作っている方が機能しやすいですよ、やっぱり。福祉のことは福祉のプロに任せろ、という雰囲気もありますが、任せっぱなし、任せられっぱなしにしているのは、いざという時に「助けて」と言いにくいし、助ける方も何をしたらいいかわからない。よく、「みんなで避難しよう、助け合おう」と言いますが、「みんな」の中から障がい者をはじめとする要援護者は抜け落ちているんですね。避難マニュアルの中にも障がい者の避難については抜け落ちていることが多いんです。だから、そんなことにならないためにも、地域の中に入って、地域の人みんなで情報を共有するのが大事だと思うんです。日頃からコミュニケーションが取れていれば、支援する方も自然に肩肘はらない形でできるし、支援を受ける方もストレスを感じにくいのではないのでしょうか。地域のコミュニティを高めることが、災害時の避難・救助体制づくりにも結びついてくる。東日本大震災というあれほどの大災害があった今こそ、地域の支え合いの再構築をする時だと思っています。

阪神・淡路大震災の時に比べて、ボランティアも変わってきましたね。がれき処理のために支援に向かう人もいれば、避難所で話を聞いて欲しい人のためのボランティアもあります。ボランティアが働きすぎて、避難している人がお客さんのようになるなど、ボランティアする側からもされる側からもいろいろな不満が出てきました。私たちは、障がい



を持つ方が自立できるように支援すべきで助けすぎではいけない、といつも考えています。災害発生直後、発生して数日間、避難生活、と各段階で支援の仕方は変化していきます。

支援したい、役に立ちたいという熱意を相手に押しつけるのではなく、何が相手にとって必要か、どうすれば最終的に自立できるかを考えよう、と。そして、ボランティア活動を行った人は、その後、地元へフィードバックして欲しいのですが、その点はまだまだですね。自分の住んでいる地域で災害が発生した場合、どうすべきかも考えるボランティアになって欲しい。それが、私たちが提唱する、地域コミュニティでのネットワークづくりにもつながるんですよ。支援活動をしてわかったのですが、「地元の人の世話になるのはいいけど、よそから来た人には頼りにくい」という考えの人もいます。東日本大震災での経験から、ボランティアに対して、「外部のボランティアから地域のボランティアへ」という考えが生まれてきているのが今の状況。災害地でボランティア活動をしてきた、で完結するのではなく、自分が暮らす地域の中に入っていき取り組みをして欲しいと思います。



障がい者が支援の担い手として声を上げることも必要

障がい者というのは、災害が起こると要援護者になってしまって、守られる存在というイメージが強いんです。でも、自分たちで動きたい障がい者もいるし、当事者が声を上げることで事態が変わることもあります。障がい者自身がどこに避難したいか、どんな援助が欲しいのかを発信していくこと、地域がその声を受けとめることが、地域全体の福祉の底上げになるはずですよ。ゆめ風基金では、障がい者の当事者派遣をしています。災害支援で障がい者が行く、こういう取り組みをしている団体は珍しいです。いずれは障がい者の防災リーダーも育成していこうと考えています。障がいにもいろいろあるので、横のつながりをもっと密にしないといけないという思いもあります。災害時のフレームづくりも大切ですが、災害時に力を発揮するのは、普段の福祉づくり。何とかなるだろうでは、いつもしていることの2~3割しかできません。一人ひとりが地域を救おうと意識することが、地域のためになり、自然に障がい者を救うことになるのではないのでしょうか。(談)



NPO法人【ゆめ風基金】

〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1-13-43
新大阪第一ダイヤモンドマンション106
TEL06-6324-7702 FAX06-6321-5662
<http://yumekaze.in.coocan.jp/>

平成24年度

災害支援ボランティアリーダー養成講座



災害による被害をいかに防ぎ、対応していくか。

日頃の地域コミュニケーションの形成や、

障がい者をはじめとする要援護者が災害に遭遇した場合の情報伝達方法、避難所生活等における様々な問題など、災害時に地域と要援護者をつなぐボランティアリーダーに必要な知識を学ぶ研修を開催します。

開催日 2013年2月21日(木)~2月22日(金)

時間 受付時間12:30 開講13:00 閉講2日目15:00

会場 ビッグ・アイ(国際障害者交流センター)研修室

定員 100名(先着順・要申込)※定員になり次第締切

受講料 無料(旅費、宿泊費、食事は、受講者負担とします)

応募締切
2月12日(火)
必着

お申込み・
お問合わせ

ビッグ・アイ「災害ボランティア」係 / 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail saigai@big-i.jp

詳細はビッグ・アイホームページをご覧ください。
<http://www.big-i.jp/>



福祉避難所開設訓練

東日本大震災を契機に、大規模な災害に対する備えの意識が高まっています。しかし、「実際はどうなるの?」「何が必要なの?」「すこしでもストレスを少なくするには?」など考えているだけでは、実際に災害が起こったとき、何もできないかもしれません。そこで、ビッグ・アイは堺市との共催で、福祉避難所開設訓練を開催します。一緒に開設作業などをしていただける参加者を募集します。

日 程 2013年2月22日(金) 15:00~17:00
会 場 ビッグ・アイ(国際障害者交流センター) 研修室
手話通訳・補助犬同伴可

講 師 石井布紀子氏(有限会社コラボねっと 取締役)

参加対象 福祉施設関係者、災害ボランティア、障がい者ボランティアに関心のある方

プログラム 1. 福祉避難所設置・開設シミュレーション「福祉避難所のレイアウトを考えよう」
2. 生活空間づくり・スクリーニング体験「レイアウトを変更し、資材を使って生活スペースを作ろう」
3. 災害避難食の試食

申込方法 下記の必要事項をご記入の上、FAX、Eメールまたは封書にてお申込みください。
①氏名(フリガナ) ②性別 ③年齢 ④住所 ⑤電話番号 ⑥FAX番号 ⑦Eメールアドレス
⑧同伴者氏名(フリガナ) ⑨必要な情報サポート ⑩開設訓練でお手伝いしていただけること
(手話通訳、外国語の通訳、力仕事、救急法など)があればご記入ください ⑪車での来場希望の有無

お申込み・お問合わせ ビッグ・アイ「福祉避難所」係 / 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail hinan@big-i.jp

福祉避難所とは

「高齢者、障がい者、妊産婦、乳幼児、病者等、一般的な避難所では生活に支障を来す」人たちのために、「何らかの特別な配慮がされた避難所」です。ビッグ・アイは平成24年4月に厚生労働省と堺市の協定により、堺市の福祉避難所に指定されました。

定 員

50名
先着順

参加費

無 料

お申し込み

必 要

締め切り

2/18

国際シンポジウム

「視聴覚障がい者への情報保障と支援について」

視聴覚に障がいのある人たちにとって、生活や教育、文化活動などにおいてどのような情報サポートが必要なのか? 視聴覚障がい者の生活を知ること、情報保障の重要性や支援のあり方を考えるとともに、最先端の技術や機器、海外の事例にふれることで、より深く視聴覚障がい者への理解を深め、社会参加を促すためのシンポジウムを開催します。

日 程 2013年3月9日(土) 13:00~17:00(開場12:30)

会 場 ビッグ・アイ(国際障害者交流センター) 研修室 手話通訳・PC要約筆記・補助犬同伴可

申込方法 下記の必要事項をご記入の上、FAX、Eメールまたは封書にてお申込みください。
①氏名(フリガナ) ②性別 ③年齢 ④住所 ⑤電話番号 ⑥FAX番号 ⑦Eメールアドレス
⑧同伴者氏名(フリガナ) ⑨必要な情報サポート ⑩車での来場希望の有無

お申込み・お問合わせ ビッグ・アイ「シンポジウム」係 / 〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 E-mail sympo@big-i.jp

定 員

50名
先着順

参加費

無 料

お申し込み

必 要

締め切り

3/1

詳細情報については、ビッグ・アイホームページにて順次お伝えします。

2012~2013 EVENT CALENDAR

2 february
月

01 ~3/17[日] ビッグバン
パネル展「防災ってなんだろう?」
[金] 協力:堺市危機管理室/阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター
[ヒ] イベント [無料]

問:ビッグバン TEL 072-294-0999

03 10:00~11:30 トラベルサロン
「シンガポール旅行に参加して」
[日] [ハ] セミナー [無料]

問:トラベルサロン係 TEL 072-290-0962

10 13:00~14:30(30分間) ビッグバン
ミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」
[日] [ヒ] イベント [有料]

出演:劇団音芽

問:ビッグバン TEL 072-294-0999

14 ~2/15[金] 災害時視聴覚障がい者支援リーダー養成講座
[木] [研] 講座 [無料] 要申込 定 100名 [情報保障] 手話通訳他

問:災害ボランティア係 TEL 072-290-0962

16 14:00~17:00 ビッグ・アイ セミナー
「フェアトレードに学ぶ商品開発、マーケティングの基礎」
[土] [研] セミナー [無料] 要申込 定 70名 [情報保障] 手話通訳他

問:セミナー係 TEL 072-290-0962

16 17:30~18:30 黄昏ティーコンサート
「春を待ちわびる夕暮れのひととき」
[土] ~ヴァイオリン・チェロ・ピアノで癒しの音楽を~
出演:アンサンブル アイビー
問:フロント TEL 072-290-0900

16 ~3/20[水・祝]の間の土日祝日 ビッグバン
工作ワークショップ 10~15時の各30から(45分間)
[土] 「こねこね・ねんどキーホルダー」 土曜日は12:30~14:00~15:00~
[他] イベント [有料] 定 各回24名
問:ビッグバン TEL 072-294-0999

21 ~2/22[金] 災害支援ボランティアリーダー養成講座
[木] [研] 講座 [無料] 要申込 定 100名 [情報保障] 手話通訳他

問:災害ボランティア係 TEL 072-290-0962

3 march
月

02 13:00~15:00 夢カナエルプロジェクト 企画・主演:よっちゃん
[土] 「闇の中の、輝く命 統合失調show」
[研] イベント [無料] 定 80名 [情報保障] 手話通訳他

02 15:20~16:35 「言葉と手で語る志茂田隊長 えほんよみきかせ」
[土] ~わたしの手から、あなたのココロにひかりの贈り物~
[他] イベント [無料] [情報保障] 手話通訳他

03 14:00~16:00 夢カナエルプロジェクト 企画:UDJ21
[日] 「懐かしの映画音楽と世界の名曲集」
[多] イベント [無料] 要申込 定 1,200名 [情報保障] 手話通訳他

09 13:00~17:00 国際シンポジウム
[土] 「視聴覚障がい者への情報保障と支援について」
[研] イベント [無料] 要申込 定 50名 [情報保障] 手話通訳他

10 14:30~16:15 ビッグ・アイシネマ
「マーガレット・サッチャー 鉄の女の涙」
[日] [多] イベント [無料] 要申込 定 1,200名 [情報保障] 点字通訳他

16 14:00~16:20 ビッグ・アイセミナー
「ニュージランド・トラストの」
[土] 「人と社会に変化が生まれる!」事例集 [ヒ] ア・サポートとマーケティング概説
[研] セミナー [無料] 要申込 定 30名 [情報保障] 手話通訳他

16 17:00~18:00 黄昏ティーコンサート
[土] 「シネマパラダイス ~想い出の映画を聴きに行こう~」
出演:BUBU-BASS
[他] イベント [無料] 問:フロント TEL 072-290-0900

20 13:00~14:30(45分間) ビッグバン
[水・祝] 「武蔵の楽しくて強い空手体験教室」
出演:武蔵(空手家・格闘技家)
[ヒ] イベント [無料] 問:ビッグバン TEL 072-294-0999

イベント・アイコン表示について

多 … 多目的ホール [他] … その他 [無料] … 参加費無料
研 … 研修室 [定] … 定員数 [有料] … 参加費有料
ハ … バリアフリープラザ [要申込] … 予約が必要
ヒ … ビッグバン [別途入館料が必要]

講演会 … 講演会 [情報保障] 手話通訳他 … 手話通訳
セミナー … セミナー [情報保障] 手話通訳他 … 点字プログラム
講座 … 講座 [情報保障] 手話通訳他 … 副音声・状況放送
イベント … イベント [情報保障] 手話通訳他 … その他サービス

各イベント等は開催予定です。事前にご確認ください。



ケアフードとは、
回いものを食べる
ことがむずかしい
方むけの流動食を
表す造語です。



写真はイメージです。

豆腐ハンバーグ照り焼きソース

材 料	《ハンバーグ》		《ソース》		《添え物》	
	●鶏ミンチ肉	80g	●みりん	大さじ 3	●人参	20g
	●木綿豆腐	50g	●しょうゆ	大さじ 2	●メークイン	20g
	●玉ねぎ	1/4 個	●酒	大さじ 1	●ブロッコリー	20g
	●パン粉	20g	●片栗粉	少々	●大根	20g
	●鶏卵	1/4 個			●スープ (チキンコンソメ)	1 カップ
	●サラダ油	大さじ 2			●バター	大さじ 1
	●塩	少々			●砂糖	大さじ 1
	●胡椒	少々			●塩	少々

作り方

《ハンバーグ》

1. 玉ねぎをみじん切りにし、フライパンできつね色になるまでよく炒め、冷まします。
2. ①によく水切りした豆腐、鶏ミンチ肉、パン粉、鶏卵、調味料(塩・胡椒)を
粘りがでるまで混ぜ、好みの大きさに整えてフライパンで表面に焼き色をつけます。
3. ②を180度のオープンで10分加熱します。

《ソース》

1. アルコールを飛ばした酒にみりん・しょうゆを
加えて弱火で煮込み、片栗粉でとろみをつけます。
2. ハンバーグ、添え物を盛り付け、ソースをかけます。

《添え物》

1. 人参、メークイン、ブロッコリーを好みの大き
さに切り、調味料(スープ・バター・砂糖・塩)と
あわせて軟らかくなるまで煮込みます。
2. 大根をおろします。

レシピ提供: フジ産業株式会社 関西営業所 075-595-1701

